

随想 三題

郷愁のなかの神戸

森 茂子  
△二科会会員V



今ひき出しの中に少し色あせた封筒と便箋が何種類か入っています。これは昭和十五年頃大丸の南側の居留地にあった中国人のお店で母があつたものなのです。

その頃私達の家族の日曜日は生田神社の南にあったハイウェイや南京町の第一楼などで昼食をとりそのあと父はきまって元町の入口にあるブラジレイロでコーヒーをのみます。このカフェはガラスばりで観葉植物が沢山おかれ中央のらせん階段が吹きぬけの二階へ続きます。又しやれた名前のレンクロフォードとかレヤア商会と云う店が西洋の雰囲気をもつまま伝えていました。天井の高いす暗い店内には長く巻かれた布地が机の上いっぱいには並べられ母と店の人の悠長なやりとりの間私はかくれんぼでもする様に広い店内を歩きまわっていました。

後年テレビジョンでみる外国の白黒映画の中にこうした情景を度々みつけ、その度に自分がその中に入りこんでしまう様な不思議な思いをくり返したものです。そし



オリジナル絵はがき「旅のノスタルジイ」より「トアロードの午後」

て外国に旅立つ叔父を見送り、又出迎えた港の光景も忘れられないものです。デッキには着飾った人々が花束を抱えテーブルがとび、楽隊の奏でるメロディは物哀しく子供心にも遠い国々への夢をかきたてたものです。これらは陽だまりの中で過していた様な少女時代への郷愁であり、時には胸の痛くなる様な思いでもあります。

新しいものは旧くなり古いものは又新しいものを生み出してゆ

く。昔港から流れこんだ世界の文化が、この土地に根ざし次第に神戸というはつきりとした顔を持つ様になりました。

今神戸の街に出てみると何と美しい事でしょう。道路も整備され新しい建物としやれたお店の続く坂道も幅広い感性溢れる活気にも驚くばかりです。でも一寸横道に入ると季節にはさくろの実が頭上にたわわに実り、ひっそりと建つ異人館は表通りの美しく手入れされたそれより一そう実在感が有ります。

デッサンがしつかり出来ていれば表面的なものは自由でいいのではないか、あまり画一的な造られた街になりすぎないでほしいと希い乍らスケッチに歩いています。

●オリジナル絵はがき&カード「旅のノスタルジイ」取扱店 丸善神戸元町店、まぜらんOPA店、日本橋店(東京)、河原町店(京都)、心齋橋店(大阪)、海文堂書店、青屋大丸他。

随想 三題

ミウシヤのある  
ライブラリー

山本 芳樹

〈神戸風月堂社長室参与  
ファッションライブラリー館長〉



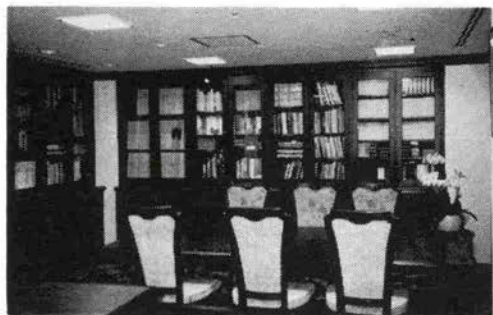
三月三日にオープンしたポート  
アイランドのホテルゴーフリッ  
ツの15階にファッションライブラ  
リーが開設されました。

ライブラリーの入口の両側には  
世紀末バリで活躍したアール・ヌ  
ーボの巨匠ミウシヤの版画が飾  
られ室内はアンチックな書斎風に  
アレンジして落ち着いた雰囲気  
で本を見ていただけるようにして  
います。しかし図書室自身は約60㎡  
のこじんまりしたスペースです  
で、収納本も現在約五、〇〇〇  
冊、内訳は服飾関係約二、七〇〇  
冊、関連美術約一、〇〇〇冊、そ  
の他約一、五〇〇冊で、五年後  
には約一万冊を目指しています。開  
館は現在正午から夜九時までで、  
ホテルにお泊りのお客様は自由  
にご覧いただき、一般の方は会員  
制でお願いしていますが、今のと  
ころご入会の方も順調で、ホテル  
中のライブラリーという珍しさ  
も手伝ってか連日見学の方も絶  
えません。

ホテルにライブラリーという発  
想は神戸風月堂の下村光治社長の

アイデアで、まだ日本では珍しい  
のではないかと思います。ファッ  
ション都市神戸にふさわしい、ま  
た美感謝創の新しい時代のニーズ  
に応えるにはホテルにもこんな施  
設があつていいのではないかと考  
えた一つの試みだと思えます。

二年前に下村社長からファッ  
ションライブラリーの話を受けた  
時、これは面白いと大賛成したわ  
けですが、しかし考えてみると一  
口にファッションと言っても、狭



欧州調の落ちついた一室

義の服飾から今日では生活全般の  
すべてがファッションであり、フ  
ァッション感覚でとらえられてい  
ると言っても過言ではない時代で  
す。ですからそんな個々の生活面  
の現象を追っていたのでは限り  
がありません。そうではなくてや  
はり何がいいか、何が本物かを判断  
するのは各人の感性や美意識で  
すから、皆さんの感性や美意識を養  
っていただくために役立つ本がい  
ちばんいいのではないかと。ではそ  
の本とは何か——ということから  
スタートしました。

勿論中核は服飾関係本ですが、  
関連美術に力を入れ、先ず日本人  
の伝統的な美意識を芸術性豊かに  
表現した「琳派」、さらにその美  
を継承した「浮世絵」。そしてこ  
の浮世絵の影響を受けて大きく開  
花した西欧の世紀末芸術、特に華  
麗なアール・ヌーボ、そのあと  
のアール・デコ等の関係本を中心  
に収納しました。

その思い入れの一つの催しが開  
設記念の七週に亘る連続講座「現  
代の美意識を世紀末に探る」です。  
果してそれがどのように皆さんに  
受けとめられか期待しています。

# 合言葉は— 神戸に映画文化を！

小林 義正

〈神戸映画サークル  
協議会委員長〉



神戸生まれ、自称「神戸っ子」

である私は、あまり裕福ではなかったけれども、月に1〜2回は新開地に、家族揃って映画を見に行った覚えがある。その映画は両親の好みもあってたいていが洋画であった。そうしてみた中に、空中ブランコに胸踊らせた「地上最大のショー」やユル・ブリナーの坊主頭に驚いた「王様と私」などがあった。スーパードールが読めずに映像だけを眺めていただけかも知れないが、それらの映画の1カット、1カットが心の片隅に残って時々思い出される。

映画の帰り道はきまって「春陽軒」の火鍋や「赤ちゃん」の洋食などを食べるのが子供達にとっては楽しみの一つであった。そこには映画と観客の蜜月時代が存在していた。

現在、新開地はさびれ、往時を偲ぶようなものがないが、映画人口をとってみてもその当時の十分の1に激減しているのが実情である。そして、大阪までくるが、神戸には一向にこない映画群……。ア



陸 小 芬 さん

イドル映画もいい、アクション映画もあっていい、だけどそればかりではつまらないというのが映画ファンの本音である。ここ数年、神戸映画サークルの例会作品に未公開作品がふえたのもそのせいである。しかし、月に1作品しかやれない神戸映画サークルが、神戸未公開作品群をこなせる訳もない、やはり、劇場が主役である。一昨年、数人の有志で、話し合ううちにこの状況を打破するため

の市民運動をつくろうとできたのが「神戸に映画文化を！」連絡協議会である。一昨年は台湾映画とシンポジウム、昨年は、第一回国際映画フェスティバルとしてアジア映画8本を上映し、好評を得た。そして、今年は第2回として、市制100周年に因み、港を舞台にした16本を、台湾のトップ女優の陸小芬さんはじめ監督、原作者など多彩な顔ぶれの講演、対談などを予定している。

昨年のアジア映画上映に対して多くの人が日本映画がもっていた輝きを見出し、水準の高さを再認識しており、新アサヒ劇場の「芙蓉鎮」上映や、オーブニング公開した「青春スケッチ」が大阪で劇場公開されるなど、私達の運動が着実な広がりを見せている。

また、新アサヒ劇場が単館ロード作品を積極的に上映することで同館への期待と支持が高まり、観客数を増やしていると聞くにつけても、映画と観客との蜜月時代の再来めざして、今後とも活動したい。



# 京都府立京都文化博物館

## 三度目の奉公

— 京都三条に文化の新しいコア誕生 —

嶋田 勝次

△神戸大学建築学科教授▽

京都千二百年の歴史の厚味は当然神社仏閣の随所にその反映が現われているが、街中にある明治近代建築にもその面影を見出すことが出来る。

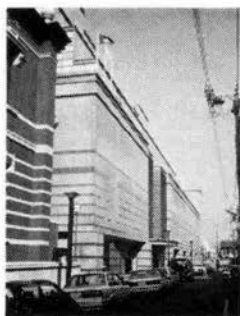
先年その保存問題で物議をかもししていた三条通りの中京郵便局はその北側の何割かは新築の建物にとつて代ってしまったが、通りに面する部分は、きちんと保全されていて、ほっとした。

この三条通りの何軒か東側にはもと日本銀行京都支店の明治三十九年竣工の建築がいち早く保全されていて、昭和四十五年に国の重要文化財となり、平安博物館として二度目の役割を果たしていたものである。この建築は日本人建築家の大ボスとして君臨しつづけた辰野金吾大先生の作品であり、日本各地に多くの足跡を残しているがこの建築は赤煉瓦と白花崗岩の横縞との調和がみごとに威厳まで保ちつづけているものであった。

昨年秋には更にこの北側の高倉通り側に地上七階、地下一階の建築が新設されて、京都府立京都文化博物館として三度目の奉公とな

ったのである。そしてこの旧館は博物館の別館として、考古と民俗の保全と展示の部屋として活用されている。

増築新設の新館は、六階の和室展示場と五階の洋室展示場には京都らしさをアツピールする展示が行なわれている。四階には特別展示室があるし、三階には美術工芸



▲京都府立京都文化博物館

のコーナーがある。

それよりもこの博物館の大きな特色のひとつは、三階の南側に分離してつくられている映像ホールの併設にある。

このフィルムライブラリーの所蔵は有名だが、現在ここでは時期を限って映画の上映を進めていて、古い映画を見る機会を与えてくれる。ちらっと見たリストには戦前劇映画特集とあって、二月の番組には嵐寛寿郎の「鞍馬天狗」

や、阪東妻三郎の「牢獄の花嫁」なども予告されていて、一層興味をそえられる。

神戸では一昨年春、映画の日本発祥の地を記念して、神戸市民を中心に募金を集めてメリケンパークに巨大な映画の記念碑モニュメントを設置したのだが、京都では生きた日本映画の上映が進められていて、さすが日本における早い近代化の火が消えずの感が印象付けられて来た。

もう大分旧聞になってしまったが東京の国立近代美術館に所蔵されていたフィルムライブラリーが失火で大切なフィルムが消失したとの報に接したのだが、京都では近代の生きた伝統が息付いているのは嬉しい。以前広島で図書館のフィルムライブラリーを拝見して、神戸にこれ以上のものを、と思っていたので、この京都を見て、京都らしさのアツピールの中にある京都の日本映画に負けない神戸らしさと共にある外国映画を対置させることもあってしかるべきではないかとも思ったのである。

この旧館と新館をつなぐ一階の中庭に面して喫茶室がある。のんびりとコーヒーを楽しむながら、昔この空間は銀行の別棟の金庫室であり、この洋風家具は、西欧でゆつたり使われて来たものかなあと想像をめぐらせたりもしたのである。

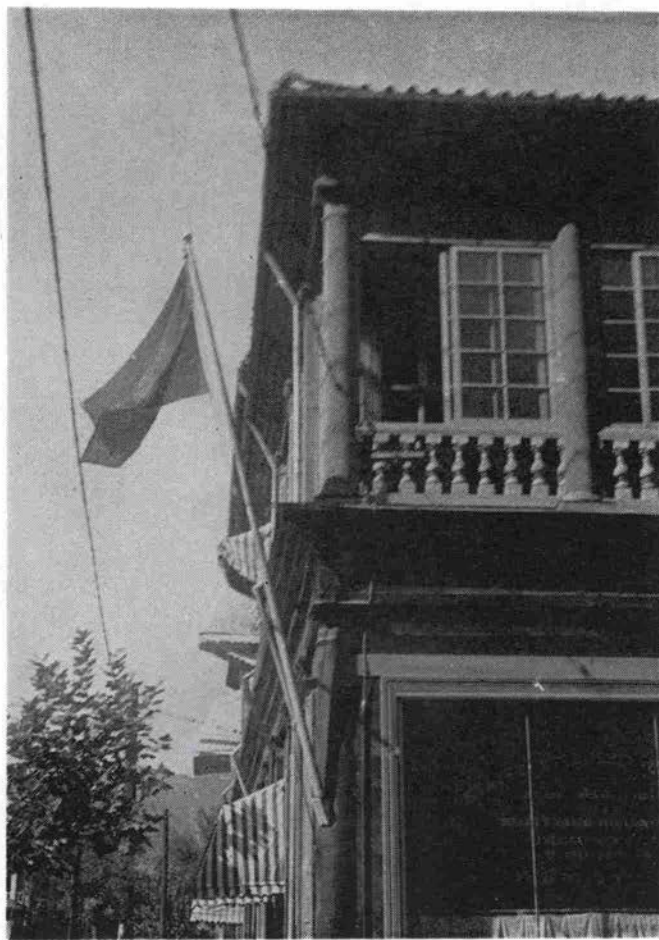
## 旗とクルマ

文・写真

林田重五郎

〈元・新聞記者〉

半世紀前の旧居留地で、もっとも居留地らしい美しさというと、まず窓の外側に三角形でしま模様が下がっていた日おおい。その一例は第1回の始めに写真を大きく撮ってもらっている。それに次ぐ美しさは旗である。



A・旧居留地のナカ町、東西の通りのまん中のあたりにひるがえっていた旗2つ。どこの国旗か、どこの社旗かわかららない(昭和11年夏撮影)

## ◇ 旗

この53年前に撮影した写真は、カメラのテストを頼まれ、目的もなくパチパチ居留地内を写して

回ったものだが、旗を特にねらったわけでもないのに、意外にもたくさん写っている。いろいろな国の旗、外国会社の旗、当方無学でどこの国旗

かハッキリ説明できないのが情ない。

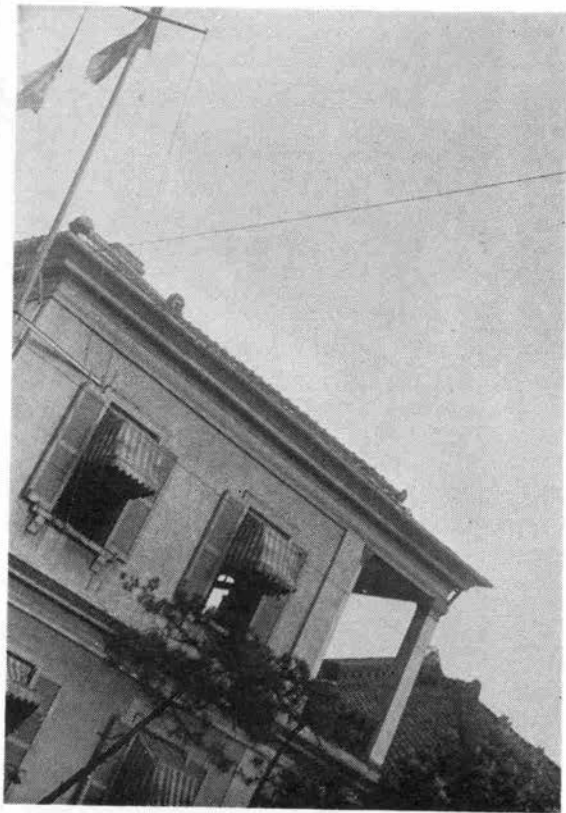
まず写真④、居留地のほぼまん中を東西に走っているナカ町の、中央あたりでとったものだが、十字の旗竿で、屋根の上高くひるがえっている二旗（りゅう）。面白いので、カメラを斜にしてねらったのは名案だったが、肝心の上部が切れたのは大失敗。

次は写真⑤、ナカ町のひと筋南の東西の通り前町が、南北に走っている播磨



▲B・旧居留地ナカ町のひとと筋南が前町（海岸通のひとと筋北）、この東西の通りと南北の播磨町の交わる東北角が16番地。この旗はその建物ではないかと思われる。

▶C・旧居留地東部の江戸町、ナカ町角と思われる。（いずれも昭和11年夏撮影）



町と交わる東北角が16番地。フィルムはこの次に16番地の門柱が写っており、その窓ワクの図柄が一致するので、この建物ではないかと思われる。その角に、良い姿で旗がなびいている。窓の日おおいのシマ模様の彼方には市背の山が望まれる。平凡だが好きな1枚である。

写真⑥は、ナカ町を東へ歩き、京町を越え江戸町の角あたりの建物。玄関の中央から立派な旗竿が出て、すばらしい旗を垂らしている。旗の模様でこの建物かお判りになる方もあろう。旗の右上の4分の1にイギリスの図柄が見える。そして窓には文字がある。眼鏡鏡でいっしょうけんめいに見たが小生年をとりすぎて読めない。

#### ◇ クルマ

そしてこの写真の中央の、玄関前のクルマの形がなんともいえない。50年前の車の上品さを身にしみて感じさせてくれる。当時の自動車の数はも





▲D・旧居留地ナカ町から東へ歩いてゆき、京町筋を渡ったあたりではないかと思う。

E・旧居留地東部の東西ナカ町角あたりか。向こうに見えるのは、東遊園地であろう。▼



ちろん今よりウンと少なかった。われわれ新聞記者も、事件があつて乗るのは契約してあるタクシー。自家用車を操っているのを各社合わせても記者ではたしかた1人だった時代である。

旧居留地を走る数も少く、もちろん99%以上ほとんどが外車だった。黒色のどっしりした感じが多かったように思う。それだけにこの車の風格はすばらしい。

写真⑩は、そのナカ町を東へ京町筋との十字路で渡ったあたり。馬のひく荷車が2台続いて来

る。あのころの日本ではトラックがまだ少なかった。

左の方には自転車と、白色の荷物を積んだりヤカーを引く自転車が見える。

そして写真⑪、ナカ町をさらに東へ、東町あたりで商館の玄関に大砲が飾られていた。その前に人力車が1台。主人か、雇われ主が館内で仕事の会談をしているのであろう。たしか、あころの居留地で人力車の数は多かった。彼方に望めるのは東遊園地であろう。



## 夢のマイ・ホーム

絵と文

右近 雅夫 へ在ブラジル・サンパウロへ

□トランペット片手にブラジル一人歩きへ19▽

緑の丘の上に白い壁をめぐらせた彼の家の敷地は想像していたより広く、ゆったりした底は幾つものハンモックのぶら下ったテラスに、さわやかな影を投げかけていた。サンパウロ州奥地のプレジデンテ・プルデンテに住む家内の弟が家を新築し、前から招待されていたので、去年のパスコア（イースター）の連休を利用し、家内と息子と三人で行って来た。義弟のフランシスコを僕達は「キコ」と言う<sup>あだ名</sup>紳名で呼んでいるが、口腔外科が専門でプルデンテの町で歯科医院を開業している。僕は冗談まじれに「凄く儲けたんだなあ、こんな立派な家を建てて……。」といったところ、「お前も近い内に自分の家を買えるぜ、五月のパスデイは新しいアパートが出来るよ。」と笑いながら答えた。

プルデンテからサンパウロに帰って翌日、僕の末の妹が電話をかけて来て、「娘のエリザが昨夜、兄さん一家が白い壁にテラス付きの豪華なアパートに引越した夢を見たよ……。」と話した。

結婚して十四年間我々一家は、サンパイオ・ヴィアナ通りの寝室二つにサーラ、台所、風呂場に

小さな女中部屋の付いたアパートを借りて住んでいた。地階のガレージの便利も良く、何よりもインフレで十四年間も住んでいると只同然の家賃だったので、それを良い事にしてずっと居坐っていた。但し息子が十二歳にもなると、ボロ家だからと言ってクラス・メイトが家に遊びに来るのをひどく嫌やがった。上流階級の子弟の通っている学校にやっているので、子供がてらコンプレックスを抱くようになったのだろう。ところがプルデンテから戻って一カ月も経たない内に、或る日突然裁判所を通じて家主がアパートを明け渡してくれ、というて来たのである。

ブラジルのインフレは有名だが、新しく就任したサルネイ大統領が物価凍結令を發布した直後の事であった。全ての物価が凍結され、銀行利子が下げられ、一時的にせよインフレがゼロになったのである。家を追い出しに喰った事をバンドの仲間に話すと、経済事情に詳しいフェルナンドが、「今のブラジル経済は丁度一曲演奏し終えて次の曲が始まる迄の休止符の様な状態だ、不動産を買うには又と無いチャンスだよ……。」と教えてくれ



た。僕は家内と相談、彼女の父親からもらった近郊アチパイにある家と土地を売って僕等のアパートを買おうと話がまとまり、家を売りに出すと同時に、新聞広告を見てアパートの売り物を探して歩いた、然しなかなか手頃なのが見つからないでもたもたしている、息子のマサラズイニオが、「毎朝スクール・バスで通るところに、パイの好きそうな白い壁にテラス付きのアパートが売りに出て居るよ」と言ったので、家内も僕も半信半疑で見に行った。成る程それは長年僕が夢に見ていた、地中海式建築で僕は一目ではれ込んでしまった。「家が売れてからでないと絶対に契約なんかしたらあかん」と言う父や弟、妹の反対を押し切って、僕一生一代の勇気を出してアパートの入金を



テラスで家内のマリアと

してしまった。ところがすぐに売れると思ってた家が、アパートの支払い期限が迫って来てもなかなか売れず、僕は段々心配になって来た。そうした或る日、そのいきさつを家内から聞いたアミゴのレナトが、「何故銀行で借金しないのか。今は利子も安いし家が売れたら返せばいいじゃないか？自分でなければ保証人に成ってあげよう」と親切に言ってくれた。彼は日本なら日銀に相当する中央銀行に勤めているので、銀行の借金もうまく行き、アパートの支払いも済ませた。そしてそれから二カ月後にやっとアチパイの家が売れたが、その日は丁度亡くなった家内の母親の命日であった。新政府の物価凍結による新経済政策の破綻がその直後から、そろそろ現れ出した。まず銀行の個人貸し出しがストップ、市場に商品が不足、アジオを払わなければ何も買えなくなった。それに引き続き不動産は暴騰、銀行利子は、月二十パーセントと恐ろしいインフレの再来だ。

引っ越しの前日、リベロンから家内の妹のアナが手伝いに来てくれ、電話局に行って電話の移転手続きをしてくれた。「こんな番号に変わったけれど」と言っただけで新しい電話番号を見せられて僕は驚いた。下の四桁が3674、僕が少年期を過ごした日本の戦災で焼けた鴨子ヶ原の家の電話番号と同じだった。

それから一年、僕がテラスの片隅にある花壇の手入をしていると、横で家内のマリアが言った。「夢のマイ・ホーム、だけどあの時主人が決断を下していなかったら如何なっていた事でしょう。僕は苦しかった時、何時も僕を励ましてくれた母の言葉を思い出した。「男は一生の内、何度か勇氣を振い起さなければならぬ時があるよ。」」

# 音

楽夜話〈39〉

東門の夜は更けて…

ヒマナシ4、27周年

言いたい放談

メンバー 土居二郎・植原文三  
西垣道生・福田幸雄



・コーラスグループ「ヒマナシ4」を結成して、27年になるが、そんなに年とったとおもわないが…

・昭和59年にサンTVの歌番組で、優勝したとき、キダタロー氏が、「20年もやっていたら一人くらい死んでいるのがふつうや」と笑わせていたね。そもそもの出会いは…

・グループを作ったのは昭和35年頃。コーラスブームのとき。ダークダックスやマヒナスターズなどがデビューして、三宮にもうたごえ喫茶ができた。

・音大生がバイトで歌の指導をしていたね。

・ロシア民謡などをみんなで合唱したり…

・うたごえ喫茶で私たちがコーラスをやったら、あとで店のオーナーがリーダーに「お前たちより上手じゃないか」と叱っていたね…

・そういえば、大阪の北野劇場のうたごえ喫茶で、5日間出演して、はじめてギャラをもらったね。一日五百円。

・表の看板が、「ヒマナ・シスターズ」となっていて、女性コーラスとまちがえられてね(笑)

練習はどこで？

・土居歯科の診療室がたまり場で、よく徹夜したね。

・昭和30年代は、三宮も発展途上で、キャバレーやナイ

トクラブがどんどん出来た。

・当時、プロ歌手が生バンドで歌っていて、客も聞き上手だったねえ。

・あるキャバレーのマスターが歯の治療にきて、コーラスのテープを聞いて、是非来てくれというので、飲みに行ったら、ショータムにファンファーレで、「今、神戸で活躍中の…」アナウンスがあって、まんまとショウウに出されたことがあったね。

・しかも、飲み代払ってね。(笑)

・新開地のスタンドバーにもよく歌いに行ったね。

・昭和40年代は、のど自慢によく出場した。

・テレビがまだ白黒だけで、生放送の時代だ。トリオといさんずや藤田まことがCMにでてたね。素人名人会も西条凡児さんが司会の頃で、年間名人賞をいただいた。

・審査員の中沢寿士さんが、「マヒナ物だが、自分たちのものになっている」といわれていた。

・昭和50年代にはいると、カラオケ時代だね。

・「ヒマナシ4」も、この辺で自作テープを作ろうということになって、昭和49年から54年頃にかけて、土居さんの自宅で録音したね。

・カラオケレコードがまだないから、インストルメンタ





▲25周年記念パーティーのもよう。ファーストバブにて。

ルから選ぶのが大変だった。

・ある時、ミノルホンのLPでカラオケを見つけて、それからカラオケレコードを集めまくった。LPで100枚近くもっているよ。

・そのうちに、スナックで8トラのカラオケテープが流行りだした。

・55年頃から60年代は、カラオケスナック巡りだね。

・スナックで歌うのも、コーラスでやるのは珍しい。

・ムード歌謡コーラスだから、ネオン街にぴったり。

・お客さんの歌に合わせてハモるのが楽しくて…

グループ結成25年目でレコードデビュー

・昭和62年7月に歌手の神戸のター坊の歌謡コンサートに出演させてもらったのが縁で、作曲家の竹田喬先生に曲をつけてもらったのが、「東門ブルース」と「そんなに泣くなよ」で、10月の25周年コンサートで発表し、63年2月にキングレコードから全国発売したわけです。

・レコードのジャケット写真だけど、これは土居さんが撮ったもので、大変ムードがあるね。

・普通なら、歌手の写真をだすけれど、4人の写真だしたらレコード売れないから。(笑)

・漫画家の高橋孟先生が似顔絵をかいてくださった。

・4人あわせて220歳でレコードをだすのは洒落ていて面白いやないか。熟年のはげみになると…

・ほんとに有難いことでみんな大感激。

・レコードを出した昨年は5月と9月に有馬キャンペーンショウ、5月は神戸まつりに出演、10月には神鉄会館でデイナーショウと忙しくなったね。

・本業もあるからまさに「ヒマナシ」だ。(笑)

・デビュー以来プロデュースしていただいているのが、神戸のター坊・松江和耶さん、いろいろお世話になっていきます。

5月に「東門ブルース」のレーザーカラオケ発売!!

・「東門ブルース」は、メロディも簡単で歌いやすいので、久しぶりに神戸三宮の歌をみんなで歌おうと…

・これには、地元の関西信用金庫の田端理事長さんが、たいへん力を入れてくださってヒマナシ4後援会長・

「東門ブルース」を流行らせる会」委員長で頑張っていたいています。

・東門商店街のみなさんも、バックアップしてくださるとか…

・成結25年目でレコードがだせたのも、いわば強力な仕掛人のおかげだ。

・作曲の竹田喬氏、神戸のター坊・松江和耶氏、漫画家の高橋孟氏、そして関西信用金庫理事長の田端基宏氏：そして知人友人のみなさんのおかげです。

・みなさんの期待に応えてこの東門ブルースを是非でもヒットさせなければ…

・がんばりましょう。



S・K・I・P G・U・I・D・E

# メリケン パーク

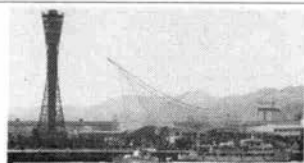
潮風が心地好く髪に靡くこの季節。海が無性に懐かしい。シングルでふらりと訪れるのも気持ちがいし、ペアで行くのも愉しく、嬉しい。よく晴れた日の休日、のびやかにスキップ気分でウォーキング。

スタート・ポイントとは人の切れない三宮エリア。賑わいの流れに逆って北西へ。次第に人込みは遠ざかり、隣接したビルの間から青空が見えだす。舂全体をのびやかに。軽やかな足どりはスキップ気分、4月の気持ちのいい休日。

海岸通3丁目あたりから情感ある建物が並びだす。郵船ビル、海岸ビル、堂々とした風格が漂う近代洋風建築は優婉で勇壮。古きよきハイカラ神戸のセピア時代を想う。このあたりまで来ると、そろ

そろ潮風が香り、港風景に包まれ始める。

△神戸ポートタワー△  
△神戸海洋博物館△



港神戸のシンボル、ポートタワー。高さは108mだが、突堤にあるので港神戸が見渡せ、夜景が美しいのはさすが。一方、隣接する神戸海洋博物館は、帆船の帆と波がシンボライズした白い鉄筋の未来ゾーン。神戸港を様々な角度から分析、展示しており、恋人同志、家族づれで巾広く楽しめるので大好評。月休  
☎391-6751 (両館共通)



ルート2をクロンし、メリケンパークへ。一昨年、神戸開港120周年の折に「メリケン波止場」と「中突堤」の間の海面を埋めて出来上がったこの公園もようやく緑が芽吹き、人が集い、「ぬくもり」



を感じられる場所となつた。青空と海が手に入る——それだけで

も充分、嬉しいけれど「つくりモノ」のイメージがぬぐい切れなか





この秋WFFを成功させよう  
ファッション文化は神戸から――

ファッション都市神戸を彩る

# KFK

神戸婦人子供服小売商組合

事務局／〒650神戸市中央区西町36 三菱信託銀行ビル8F  
ファミリア内 電話321-0345

紳ファミリア  
紳アカシヤ  
紳ウインザー  
日本モード  
紳ベニヤ

紳ブティック・セリザワ  
マシヤ紳  
紳ミヤムラ  
紳マルダイ  
紳芸夢  
紳三愛神戸三宮店

デート紳  
紳東京屋  
紳サロンデ・モード中西  
バリーモード  
紳マキシン

紳まさ  
紳ミッチャン  
紳アオイ  
石崎商事紳  
紳エスター・ニュートン  
紳ソニープラザ

紳川村商店  
紳コール  
紳コマツヤ  
紳SAIJO  
サブ靴店  
紳春貴洋装店  
紳大学堂眼鏡店  
モードショップトラヤ  
紳日欧洋装  
マミー紳

年マルトシ

紳美登利屋  
ラ・モード洋装店  
紳リザ  
紳マミーナー  
紳そごう神戸店  
紳大丸神戸店  
紳阪急百貨店神戸店  
紳三越神戸支店  
紳ダイエー  
紳シンワ洋装店  
紳スギヤ  
神戸地下街紳



# 感性の生きる街 神戸ファッションタウン

11月 華やかにグランドオープン



**K.F.T.**  
神戸ファッションタウン協議会

㈱アオイ  
㈱アシックス  
㈱アバン  
上島珈琲㈱  
㈱大月真珠  
㈱オールスタイル総本社  
カイトック㈱  
ガデリウス不動産㈱  
カワノ㈱  
㈱キムラタン  
㈱キャラバン

㈱キャン  
㈱神戸ヒラコ地所  
㈱神戸風月堂  
㈱コスモポリタン製菓  
コナミ工業㈱  
㈱ジュルベ  
㈱ジャヴァ  
㈱ジャルレ  
㈱ジュン  
田崎真珠㈱  
東亜特殊電機㈱

(協)ニッポンインテリアチェーン  
ヌートリメティックス・Int. ㈱  
㈱ノエビア  
㈱パール  
ファッション工学研究所  
㈱フジエンタープライズ  
フジコ㈱  
メイワ㈱  
㈱モードオリオン  
モロゾフ㈱  
㈱ユーハイム

㈱リオ横山  
㈱リッチガール  
㈱レモン  
㈱ワールド

※

㈱神戸ポートピアホテル  
㈱ダイエー  
三井不動産㈱関西支社  
三菱地所㈱大阪支店

■事務局／〒650 神戸市中央区港島中町 6-1

神戸商工会議所会館 6F ☎ (078) 303-2360

## 経済ポケット ジャーナル

### ★グルメはメディアだ!

WFFグルメシンポジウム開催  
この秋、京阪神3都市で開催するワールド・フアッション・フェア(WFF)。そのプレイベントとして、KOBEGルメシンポジウムが3月16日、神戸商工会議所神商ホールで開催された。

明治の開港以来、外国貿易港として、海外の生活文化をいち早く取り入れてきた神戸。「食」においても、和・洋・中を問わずバラエティに富んだ料理を身近に味わうことができる。

今回の催しは、神戸の特



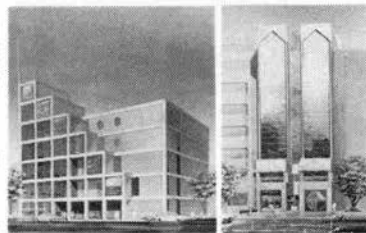
グルメはメディアだ



徴を活かし、グルメは単に「食」とどまらず、食文化、生活文化などの情報を凝縮したもつとも新しい情報メディアであることを再認識するために開催、今後の神戸の食に対する提言をした。トークセッションの中で、伝承料理研究家の奥村彪生さんは、「これからのグルメ都市は神戸です。和・洋・中の合体による新しい神戸の料理に期待したいですね。」と、しめくくった。

★神戸の都市景観にふさわしいオフィスビル誕生

尼崎市に本拠を構え、生活文化重視の都市づくりを目指しているデベロッパ今西建設。新しいコンセプトに基づきオフィスビルの多点展開を行っているが、現在、神戸においても、フーワードビル、伊藤町今西ビル、琴ノ緒町今西ビルの3ビルを建設中。



琴ノ緒町ビルと伊藤町ビルの完成予想パース

「主要都市の一等地に建つ中小規模のビルで、優れたものが乏しい」との考えから、地域の文化特性、地域色を反映するオフィスビルの建設を目指しており、神戸においても、環境色彩調査(カラー・プランニング)を行うなど、神戸のイメージを具体的に表現したグレイドの高いビルとなるよう配慮されている。

### ★KOBEOフィスレディ★

集

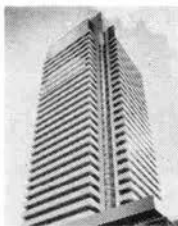
奈奈さん(24)  
〈NEC神戸セントピア勤務〉



春風が似合う爽やかな笑顔、大きな目ととってもチャーミングな彼女。ショールームでOA機器のデモンストラターとして活躍している毎日。

休日はミュージカルを見に行ったり、スポーツ観戦をしたりと行動的。特にラグビーの試合には熱が入るとか。そんな彼女の将来の夢は、ニュージーランドのような広々としたところでのんびり暮らすことだそう。

加古川市在住。おとめ座のA型。



6月に間もなくオープン

★ホテルオークラ神戸竣工  
メリケンパークにかねてより建設中であつた、ホテルオークラ神戸(大石邦雄社長)が五月十二日(金)に竣工を迎える。

ホテルオークラ二十五周年記念事業の一環として、市場としての魅力も大きい神戸に、東京以外で初めてホテル進出することになるホテルオークラの高級イメージと、海と山に囲まれた神戸のリゾート感覚を合わせた同ホテルの目玉は地上百三十五メートルの高さから見える夜景。六月二十日、オープン予定。